



災害に強いLPガス

多発する大地震の復旧活動で欠かせないLPガス、
その活躍の状況と災害対応のための都市部での導入についてご紹介します。

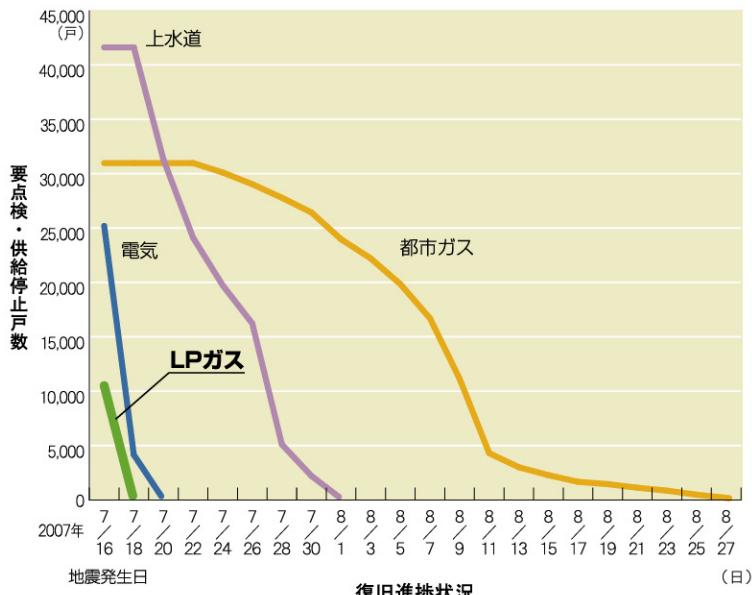
災害時に強力なサポート

心強いライフラインエネルギー

LPガスは、平成7年の阪神・淡路大震災や平成19年の新潟県中越沖地震などの大震災の際にも、1戸単位で迅速に調査・点検ができること等により供給の途絶は少なく、他のエネルギーに比べいち早く完全復旧を果たしています。またLPガスは、避難所への設置が素早くでき、煮炊きやお風呂・シャワーのほとんどの施設がLPガスで賄われました。

一般家庭で使われる50kgボンベには標準的な家庭(4人家族)の約2ヶ月分のLPガス(プロパン)が入っています。仮に50kgボンベの10%しか残っていない状態で大震災が発生し、販売店からの供給が一時的に途絶えても、約1週間は使用ができます。

●新潟県中越沖地震におけるライフラインの復旧状況



※LPガスは新潟県LPガス協会、都市ガス・電気・上水道は新潟県がそれぞれ発表した数値に基づく。

容易に供給可能なエネルギー

LPガスは、液化された状態で容器に入っているため、運搬が容易であり全国津々浦々まで供給されています。特に災害時には、どこにでも持ち運びができるLPガスの特性をおおいに發揮し、さまざまな状況下で活躍しています。LPガスは災害に強いエネルギーなのです。

●新潟県中越沖地震で活躍したLPガス



LPガス機器設置工事(被災者用仮設住宅)



LPガスボンベ設置状況(被災者用仮設住宅)



LPガスによる炊き出し(被災者用避難所)

都市部でのLPガスの導入について

都市ガスエリアでも、公共施設や指定避難場所、あるいは民間の事業所などでLPガス施設が常設されていれば、日常的にも使用可能であり、災害時には復旧活動の拠点としてすぐに活用できるという大きな安心にもつながります。このような都市部での災害に備えて、LPガスの導入を促進するため国が「都市ガス地域におけるLPガス設備導入補助」制度を制定しており、導入費用の一部を補助しています。

●災害時・供給設備等導入補助制度

この事業は、民間の事業者が平時から使用可能なLPガスバルク供給によるLPガス供給設備等を設置する際に、1件あたり費用の1/2(上限あり)を補助する制度です。

●バルク供給の優位性

大地震等の災害では、地震発生直後の48時間いかに乗り切るかが最も重要といわれています。LPガスバルク供給であれば、残量が半分でも3日から7日の間、停電時のガス発電機、ガスストーブを終日フル稼働させ、ガス炊飯器により100人分のご飯を賄い、さらにガスコンロと給湯器を使って味噌汁を作ったりシャワーを浴びることができます。



●こんな施設にLPガスの導入を



※民間の施設が「都市ガス地域におけるLPガス設備導入補助」の対象となります。

地震が起きたら

1)自分の身を守りましょう

まず、テーブルの下に隠れるなどして、身の安全を確保してください。



2)火の始末をしましょう

器具栓、ガス栓および容器バルブを閉めてください。



3)ガス器具はすぐに使わない

災害後にLPガスを使用する時は、販売店に連絡し点検を受けてから使用してください。

(マイコンメーターが作動し、ガスを遮断しているケースもあります。)

